

きんいん
金印

いんもん
印文

「漢委奴国王」

所在地/福岡市
指定/国宝



金印は、今から約2000年前の弥生時代に金で作られたハンコです。江戸時代、志賀島で農作業を行なっているときに偶然発見されました。金印は一辺2.3cm、高さ0.9cmの大きさで、その上に蛇の形をしたハンコを持つ部分が付いています。発見されてからしばらくは、偽物か本物か二つの意見がありましたが、金の純度（※）や、ハンコをつまむ部分の形、大きさなどを中国から発見されたハンコとくらべた結果、今では本物に間違いないとされています。



後漢（中国）の歴史が書かれた書物には、約1970年前に光武帝という皇帝（国王）が倭（日本）の奴国（今の春日市から福岡市にかけての地域）をおさめていた有力者に金印を送ったことが書かれています。そこにでてくる金印がこの「漢委奴国王」の金印と考えられています。このことから奴国の権力者が、当時の大国であった中国から、光武帝のもとで地域をおさめる王として認められたことを意味します。そして、弥生時代に

海外と国際的な関係を築いていた場所が福岡県内にあったことがわかります。

金印は発見後、江戸時代の福岡をおさめていた黒田藩が保管し、そのあとは黒田家に代々伝わってきました。今は福岡市博物館で展示されています。

※純度：物質中に、その主成分である純物質が占める割合。

【もっとくわしく調べたい】

- 福岡市博物館 福岡市早良区百道浜3丁目1-1 Tel 092-845-5011
- 金印公園 福岡市東区志賀島字古戸1865

【金印を見たい】

- 福岡市博物館 福岡市営地下鉄西新駅から徒歩で15分